

# 埼玉アートシアター通信

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2012.7-8

NO. 40



彩の国シェイクスピアシリーズ 第26弾

『トロイラスとクレシダ』

# Troilus & Cressida

【NINAGAWA 千の目<sup>まなこ</sup>】歌舞伎俳優 尾上菊之助 × 演出家 蜷川幸雄

バットシェバ舞踊団『Sadeh21-サデ21』／ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.19 ヤン・リシエツキ

2012.7-8  
NO. **40**

- 03 **TALK** NINAGAWA 千の目<sup>まなび</sup> 第25回 in 熊谷  
尾上菊之助×蜷川幸雄

---

- 06 **PLAY** 愛と欲望の物語に挑む美しき男たち  
彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾  
『トロイラスとクレシダ』  
INTERVIEW 山本裕典・月川悠貴  
細貝 圭・長田成哉・佐藤祐基・塩谷 瞬・内田 滋

---

- 09 **COLUMN** アーティストの原点06 柳家喬太郎

---

- 10 **DANCE** 映画で観るダンス!ダンス!ダンス!  
『dance on screen』

---

- 12 **DANCE** 進化し続けるイスラエルのダンス・カンパニー  
バットシェバ舞踊団『Sadeh21ーサデ21』

---

- 14 **MUSIC** 10代のプリンス、待望の登場  
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.19  
ヤン・リシエツキ ピアノ・リサイタル

---

- 16 **REPORT** バイブオルガンを身近に『みんなのオルガン講座』

---

- 17 **TOPICS** アクラム・カーン、ロンドン・オリンピックの開会式を振付  
埼玉会館ランチタイム・コンサート

---

- 18 **REVIEW** 2012.5-6 彩の国のアーツ

---

- 20 イベント・カレンダー／チケットインフォメーション  
彩の国シネマスタジオ

---

- 23 THEATER BRIDGE



COVER  
彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾  
『トロイラスとクレシダ』  
Photo◎阿部高之

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2012.7-8 No.40  
編集◎市川安紀 [アルカディア社]、結城美穂子 デザイン◎中野一弘 [bueno]

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団  
Published on 15. July 2012 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation  
※掲載情報は、2012年6月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

TALK

蜷川幸雄公開対談シリーズ  
【NINAGAWA 千の目<sup>まなび</sup>】  
第25回 in 熊谷

演劇は「旅」をしている気がします

また現代劇を一緒にやりたいですね

歌舞伎俳優

演出家・彩の国さいたま芸術劇場芸術監督

# 尾上菊之助×蜷川幸雄

「何の打ち合わせもしていないので緊張しています」と爽やかに笑う尾上菊之助さん。  
7月8日の松竹大歌舞伎『義経千本桜』に先駆けて熊谷会館に登場と相成りました。  
迎える蜷川幸雄からは、思いがけないリクエストも飛び出して……。

Photo◎宮川舞子



蛭川(以下蛭) 菊之助さんと事前にしゃべらないように気をつけてまして、新鮮な話ができればいいなあと。歌舞伎でシェイクスピアの『十二夜』をやって以来ですね。今度は熊谷で『義経千本桜』でしょう？

菊之助(以下菊) 忠信を初役でつとめさせていただきます。荒事も狐も初めてで、まだつかめていない状態ですけど。

蛭 『千本桜』でもいろんな型がありますよね。芸風とか、誰が得意としているとか。そういう選択はどうするんですか。

菊 まずどなたにお話を聞きに行くか、からですね。曾祖父の6代目菊五郎から2代目松緑のおじさんに伝わったものを父がやらせていただいているので、『四の切』は父に聞きます。『鳥居前』は(坂東)三津五郎のお兄さんにお聞きしようと。近年多くおやりになっているので。



蛭 それぞれポイントが違うんですか。

菊 先輩方によって本当に教え方はさまざまです。(坂東)玉三郎のお兄さんは、型というより性根を大事にしてくださいといつもおっしゃいます。一緒にビデオを見ながらお話しして下さる先輩もいらっしゃいますし、『封印切』の梅川では、片岡秀太郎さんにお伺いしました。私は上方の芝居は初めてだったので、関西弁の女方がどういうものか分からなかったですし、体の使い方も江戸と上方とで若干違うんです。

蛭 例えば、今、着物を着てなくても、その違いを見せてもらえるんですか。

菊 たぶん出来ると思います。江戸の女性は小股が切れ上がっていて、関西の女性は腰の辺りにや丸みがあって、少し腰を落とすような感じで……(と実演)  
(会場からどよめきと拍手！)

蛭 こう見ただけでも違いますね。すごく非常識なことを要求しているわけで、通常、洋服で女方の仕草をやってくれるなんてないですよ。僕はこういうところがす

ごく面白くて、現代の俳優が、少し自分の体をいじめながら、なおかつ自由に体を操作してくれるように願って、「歌舞伎の女方を見習え、バカヤロー！」と怒鳴ってます(笑)。でも、通じないんです。菊之助さんは自在におやりになるから、すごく楽しいですね。伝統と才能の中でどんどん成長されているんです。

## 役を広げる楽しさ

蛭 菊之助さんはすごく真面目なんですよ。一緒に仕事をしようと思うと、稽古場にやって来て、稽古場の隅で稽古が終わるまでジーンと待ってる。

菊 怪しい人みたいじゃないですか(笑)。

蛭 ああ、菊ちゃんが隅に座ってる、何か予感がするなって(笑)。ひたむきな視線に負けちゃうんですよ。それでよく一緒に仕事するようになったんです。演出家と俳優でありながら、得がたい友人でもあるんですね。お姉さんの寺島しのぶさんとも僕は一緒に仕事してまして、菊之助さんとはまったく性格が違う姉弟で。

菊 これは不思議なんですよ(笑)。

蛭 以前『グリークス』という芝居にお2人に出ただいたんですが、姉弟で近親相姦かと思うくらい仲が良い話なんです。姉弟で恥ずかしくない？って聞いたら、「恥ずかしくないですよ、お父さんとラブシーンやるから」って。そういう世界に生きてるんですね。だから僕は本当に彼らと仕事をすると、発見することばかりです。お父さんと仕事している時は、どういう心の処理の仕方をしているんですか。

菊 歌舞伎を始めた頃は、父に支えてもらって舞台に立てている感じでした。最近純粋に1人の先輩、そして役として舞台に立たせてもらっている感覚ですね。もちろん甘えは許されませんが、やはり父とやると身が引き締まります。

蛭 普通の家族とちょっと違うね。

菊 そうですね、家の中でも、父というより師匠という感覚は続いていますね。舞台の延長線上に家族がある感じがします。

蛭 (客席に)歌舞伎を観たことがないという人は絶対観てくださいね。客引きのジジイのような気分です(笑)。でも今日は観て

いる方が多いですね。今度の作品で一番注意しているのはどんなことですか。

菊 「鳥居前」は荒事の体使いをしないといけないんですね。骨格の違いを意識して役づくりをしなければいけない。三津五郎のお兄さんの本に、「荒事は心に「怒り」という字を書いてやりなさい」と書いてあって、あれだけ筋肉的な動きというのは、1人の人間が沸き上がるエネルギーをどれだけ作れるかの象徴だと思うんです。私はどちらかというとな方のほうが多いですし、初めて荒事の役をやらせていただくにあたって、自分の体をどう使ったら表現できるのかを探っているところです。「四の切」の忠信は、親子の情愛を大切に狐の心情をどれだけ出せるかですね。あとは狐言葉というのがありまして、義太夫物は必ず文楽の豊竹咲大夫さんにお稽古をしていただくのですけれど、難しいですね。

蛭 菊之助さんのように女方を多くやっている方が荒事をやるというのは、結構な荒技ですよ。そういう風に役を広げていくのは楽しいんですか。

菊 非常に楽しいです。演劇って、旅をしている感じがするんです。自分の体を通して役というチケットをもらって、舞台の中でどう自分を運用し、役を楽しめばお客さんに伝わるのか。立役も女方も落差があるほど楽しいですね。いろんな世界を見せていただいて、旅を本当に楽しめた時に、得られるものが多いんです。



『NINAGAWA 十二夜』  
菊之助の依頼により、蛭川が歌舞伎を初演出。2005年に歌舞伎座で初演。09年にはロンドン・バービカン・シアター公演も行った。左より尾上菊五郎、尾上菊之助、中村時蔵 © 松竹株式会社



『グリークス』  
2000年、シアターコクーンにて。上演時間9時間に及ぶギリシャ悲劇の超大作。菊之助は姉の寺島しのぶ(右)と姉弟役で共演した。Photo © 谷古宇正彦

## 喉を痛めて見えたこと

蛭 歌舞伎版『十二夜』では立役と女方の両方をやったんですね。菊之助さんはすごく口跡がいいんですが、声を痛めたことはないんですか。

菊 いや、ありました。去年の暮れから年明けにかけては絶不調だったんです。平成中村座で『寺子屋』の武部源蔵を初めてつとめさせていただいて、今まで出したことがないような太い声を出していたんですね。さらに『関の扉』の墨染という女方の役もいただいて、全部全力でやっていたら喉をやられちゃって……。

蛭 一番美しい声と言われる菊之助さんが喉をやられたのは大変傷つくでしょ。

菊 びっくりしました。そこまでつぶしたことはなかったの。朝起きて声を出そうとしても、出ない時には出ない。1日が始

まるのがちょっと憂鬱なんですね。

蛭 そういう調子の悪い時にやり続けて、それでもなおかつ自分の声を出せるようにするというのも大事なことです。

菊 そうですね。お客様もお聞き苦しかったと思うんですけど、その中でどうしたら伝わるのかは本当に考えました。でも(中村)勘三郎のお兄さんから、「声をつぶしてから、かえって源蔵の感情がどんどん出てきたね」とおっしゃっていたんです。自分が得意とするところに頼って大事なことを忘れることってあるんじゃないかなとも感じました。

蛭 僕もシェイクスピアをやる時、「もっと大きな声を出せ」と言うと、俳優がみんな喉をやられるんです。辛いだろうと思うけれど、そういう個人のドラマを抱えながら、成長していくんでしょうね。

## ひたむきさに感動

蛭 菊之助さんとの最初の仕事は、さっきお話しした『グリークス』です。これはギリシャ悲劇ですが、大きな壺にオリブオイルが入っている設定にしたんですね。昔、『女殺油地獄』で油屋の店先で油にまみれて殺人が行われる壮絶なシーンを観て、歌舞伎はすごいと思ったんです。それを使えないかなと。菊之助さんがやってくれば、歌舞伎と現代劇の技術が融合して、新しいギリシャ悲劇が生まれるんじゃないかなと思ったんですね。

菊 現代劇に出させていただくのが初めてだったので、台本をどう解説したらいいのか、全然分からなかったんですね。歌舞伎は先輩たちの演技、台詞回しを参考に勉強

するんですけど。しょっちゅう蛭川さんのところに伺ってました。

蛭 でも、菊之助さんはすごく良かったんですよ。自分でキャラクターをちゃんと作っていたんです。僕らと一緒にギリシャまで来て、いろんなところを回って。あのひたむきさを見たら、誰だって一生懸命、菊之助さんと仕事をしたいと思うようになりますよ。僕は感動しました。円形のよく声が響く古代劇場で台詞を言ってみたりね。ヨーロッパの人たちが、日本の若者が「アポロンよ！」なんてやってるのを見て、上手いから拍手するんです。

菊 ハハハ、そんなことないですよ！

蛭 そんなふうにも困難な旅も一緒にしながら、歌舞伎でロンドンにも行ったりね。時にはまた現代劇にも出てくれるといい



なあ、と思いますね。シェイクスピアのオールメールもあるので、歌舞伎とは違った菊之助さんの女方が見られたら嬉しいな、なんて野心も(笑)。(拍手)

菊 私も久しぶりに蛭川さんとお話しさせていただいて、現代劇にもまた挑戦してみたいという気持ちも起こりました。

蛭 今日は江戸と上方の女方の違いなんて貴重なものまで見せていただいて、ありがとうございました。

菊 こちらこそ、楽しかったです。(拍手)

[2012年6月23日 熊谷会館]

おのえ・きくのすけ  
1977年生まれ。七代目尾上菊五郎の長男。84年2月歌舞伎座『絵本牛若丸』で六代目尾上丑之助を名乗り初舞台。96年5月歌舞伎座『弁天娘女男白浪』の弁天小僧菊之助ほかで五代目尾上菊之助を襲名。現代演劇の分野でも、蛭川幸雄演出の『グリークス』でオレスティス役を演じ注目を集める。05年には『NINAGAWA 十二夜』を実現させ、獅子丸、主膳之助、琵琶姫の三役を替わり、読売演劇大賞村春子賞、朝日舞台芸術賞山修司賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞など多数受賞。近年『伽羅先代萩』の政岡、『摂州合邦辻』の玉手御前など女方の大役をつとめるとともに、『京鹿子娘道成寺』、『春興鏡獅子』などの舞踊、また『髪結新三』の勝奴、『入谷』の直侍など立役にも意欲的に取り組んでいる。



『じゃじゃ馬馴らし』で山本裕典はシェイクスピア初挑戦ながら、恋に一途な若者をいきいきと演じていた。

—— 前回の喜劇から悲劇へ、雰囲気もガラリと変わりそうですね。

前は悠貴君やキャストの皆さんに引っ張ってもらえたからこそ乗り越えられた部分も大きかったですし、何より喜劇だったので、お客さんの笑いにもすごく助けられました。でも今度は悲劇としてひとつの完結した世界を見せないとはいけませんよね。シェイクスピアの長い台詞を情景が浮かぶように伝えるのはかなり難しく、活字で読むだけでは、舞台上で動く自分の姿がまだ想像できないんです。台詞の量も前回の3倍があるので、稽古前の今は不安だらけですね。現実逃避している受験生状態で(笑)。

—— 蜷川演出初体験の手応えは？

どんなにシゴかれるだろうと思っていたら、あまり厳しく言われなかったんです。シェイクスピアの台詞らしく朗々と、言葉の頭を大事にするように、と念押しされたくらいで……。でも、2回目は甘くないだろうなと。蜷川さんは僕が「褒めて伸びるタイプ」だと分かってくださると思いますけど(笑)、反面、「コイツは叩かれても食らいついてくるだろう」とも言われているので、どうなることか。

—— 再び月川悠貴さんとのコンビです。

悠貴君とは前回、稽古が始まって2、3日で「先輩と生意気な後輩」的な関係ができたんです。衣裳をつけると立ち居振る舞いも女性そのものになるから、「男性と恋人同士の役をやっている」という違和感もなかったですね。悠貴君や『じゃじゃ馬〜』で一緒だった先輩役者さんたちは蜷川さんの

Interview [トロイラス]

## 山本裕典

やまもと・ゆうすけ 2006年にドラマデビュー。以後、テレビ、映画、舞台、CMなど幅広く活躍中。最近の出演作に、ドラマ『南極大陸』『桜蘭高校ホスト部』『もう一度君に、プロポーズ』『GTO』、映画『桜蘭高校ホスト部』『貞子3D』、舞台『パッチギ!』『ハレード』など。蜷川幸雄演出作品は『じゃじゃ馬馴らし』に続く出演。

舞台経験も豊富なので、心強いです。たぶん今回は悩みに悩むと思うので、いろいろアドバイスをいただきたいなと。

—— 2度目のシェイクスピア。ご自分なりの理想や目標はありますか。

前回から1年半の間に、現代劇の舞台も映像も経験してきたんですが、俳優として成長を見せられるほどではまだないと思うんです。でも、今回は蜷川さんの

千本ノックを受けて苦しんで、稽古場で成長していくところを蜷川さんに見てもらいたいという思いはあります。僕の中ではシェイクスピアは現代劇とはまったく別モノで、普段の何十倍、何百倍の強い思いをもって臨まないと、絶対に太刀打ちできないことは分かっているんです。シェイクスピア・ファンや蜷川さんのファンの方、僕を知らない方にも、「山本裕典はシェイクスピアを堂々とやっていたな」と思ってもらえるようにしたいですね。

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第26弾

## 『トロイラスとクレシダ』

# Troilus & Cressida



[クレシダ] Interview

## 月川悠貴

つきかわ・ゆうき 1985年に初舞台。以後、数々の舞台やテレビに出演し、98年演歌歌手に。2000年に舞台に復帰。彩の国シェイクスピア・シリーズの「オールメール・シリーズ」ではこれまでの5作品全てに娘役として出演している。その他の出演舞台に、蜷川幸雄演出『ガラスの仮面〜二人のヘレン〜』『あゝ、荒野』など。

2004年の『お気に召すまま』以来、月川悠貴はオールメール・シリーズ全5作に娘役として出演している。

—— 『じゃじゃ馬〜』は歌舞伎俳優の市川亀治郎(現・猿之助)さんが女性役で出演されました。共演されていたか。

とにかく楽しかったですね。亀治郎さんも寛 利夫さんも、何が飛び出すかわからない面白さが毎日あって。僕は亀治郎

さんの妹役で、気性の激しい姉に妹が殴り倒されて気絶する場面なども、打ち合わせもせずに自然にできるんです。亀治郎さんのシェイクスピアの捉え方はやはり現代劇の俳優とは違うと思いますし、新鮮でした。亀治郎さんの仕草や目線なども、とても美しく。例えば目をパッチリ開けると可愛らしく見え、少し細めると色っぽく見える。勉強になりました。

—— 山本裕典さんについては。

来月開幕する『トロイラスとクレシダ』。男性キャストのみによるオールメール・シリーズ初の悲劇の登場で、新展開に期待も高まる。タイトルロールは、2010年『じゃじゃ馬馴らし』で息もぴったりのカップル役を演じた山本裕典と月川悠貴だ。

取材・文◎市川安紀

彼はすごく素直でストレートな演技をするので、こちらも自然にできるんです。あまり作り込み過ぎて型にはまるよりも、台本を読んだ直感と直感をつつけ合うほうが、面白いものになるのではないかと思います。自然体で稽古場に行き、自然体で稽古ができると、自然な舞台が生まれる。今回も山本君と自然体で取り組みたいです。

—— 女性役を演じる際に心がけていることはありますか。

そもそも演劇とは嘘が大前提です。その中で男性が女性を演じるのはまさに架空の世界で、現実には絶対にあり得ませんよね。でも、単に女性になろうとするだけでは、男性がやる意味がありません。実際の女性を超越した存在でありつつ、演劇としてはリアルなものにしないといけない。そのバランスが難しいところなんです。

—— オールメールの誕生から蜷川演出の変化は何か感じられますか。

徐々に何もおっしゃらなくなってきました。演出家に演技を細かく決めてもらうと演じるほうは楽かもしれませんが、自分で考えなくなると思います。蜷川さんの稽古場では俳優が自由に演技ができるので、そこから思いがけない表現が出てくることもあります。蜷川さん自身が「こういうやり方もあるんだ」と楽しんでいらっしやる気がします。

—— 今回はシリーズ初の悲劇です。

悲劇は演じる側が完璧に作り上げないと描けないと思いますので、オールメールとしてはかなりの挑戦だと思っています。でも、ポイント、ポイントで喜劇的要素もありますし、きっと大丈夫。いいものにしていきたいと思っています。



若手俳優の登竜門としての顔も持つオールメール・シリーズ。トロイラスとクレシダを取り巻く武将たちやトロイラスの兄妹役には、今回もまた期待の若手俳優たちが顔を揃えた。

## 細貝 圭

[アイアス]

ほそがい・けい 2008年に俳優デビュー。ドラマ『海賊戦隊ゴーカイジャー』で注目される。映像、舞台のほか音楽活動も展開。主な舞台に『テニスの王子様』シリーズ、『戦国 BASARA』シリーズ、『タンブリング』『女信長』など。



蛭川さんの舞台は役者さんのパワーももちろん、舞台美術が存在しなくてもちゃんとその情景が浮かんで見えるところが本当に凄いです。その蛭川さんの舞台にまさか出演できるとは想像もしていませんでした。蛭川さんの印象は、優しさと怖さを両方感じさせる方。シェイクスピアも初めてなので不安はありますが、絶対に弱音は吐きたくないですね。これまでやってきたことを一回全部捨てて、ゼロの状態に稽古に臨むつもりです。

『シンペリン』の稽古を見させて頂き蛭川さんが舞台を作っていく姿に圧倒されました。僕には完璧に見えたものを壊し、本番では全然違うものになっていて素晴らしいかったです。初舞台で蛭川さんの演出を受けられることは本当にありがたいことです。実は「TROY 無双」というゲームが好きで、作品の世界観は同じ神話をもとに作られているので、よく分かるんです。中でも一番好きなパトロクロスを演じられるのが嬉しくて。稽古が楽しみです。



## 長田 成哉

[パトロクロス]

おさだ・せいや 2010年秋、NHK連続テレビ小説『てっぺん』で注目される。そのほかドラマ『科捜研の女』、映画『君が踊る、夏』『サルベージ・マリス』など。かつて寿司のCMでも話題に。今回は初舞台となる。

蛭川さんにお会いした時「シゴキ甲斐がありそうだな」と言われ、今から覚悟をしています。でも稽古を拝見して厳しさの中に愛のある方だと感じました。僕自身も絶対に変われるんじゃないかと。パリスは台本の1ページ目にいきなり「浮気なパリス」と書いてある(笑)。戦争のきっかけを作った男です。シェイクスピアの言葉と格闘することになりそうですが、みんなで創り上げていく舞台が好きなので、怖さと同時にワクワクしています。

## 佐藤 祐基

[パリス]

さとう・ゆうき 2005年ドラマ『ごくせん』第2シリーズで俳優デビュー。主な出演作にドラマ『花ざかりの君たちへ〜イケメン☆パラダイス2012』『クロヒョウ2〜龍が如く阿修羅編〜』、映画『源氏物語〜千年の謎』、舞台『方舟』など。



蛭川さんにお会いした時「シゴキ甲斐がありそうだな」と言われ、今から覚悟をしています。でも稽古を拝見して厳しさの中に愛のある方だと感じました。僕自身も絶対に変われるんじゃないかと。パリスは台本の1ページ目にいきなり「浮気なパリス」と書いてある(笑)。戦争のきっかけを作った男です。シェイクスピアの言葉と格闘することになりそうですが、みんなで創り上げていく舞台が好きなので、怖さと同時にワクワクしています。

## 塩谷 瞬

[ディオメデス]

しおや・しゅん 2002年に俳優デビュー、05年映画『パッチギ!!』主演、日本アカデミー賞新人俳優賞他受賞。近年の出演作に、映画『ラッシュライフ』『道〜白磁の人〜』、舞台『ジャンヌ・ダルク』『裁判長!ここは懲役4年でどうすか』など。

芝居だけに集中できる蛭川さんの稽古場は幸せである反面、役者は言い訳ができません。素敵な緊張感です。蛭川さんは厳しさの裏に愛情がたっぷり、もうついて行くしかない、という気持ちになりますね。このシリーズでは女性役が続きますが、女の人以上に所作や気持ち、客観性を重要視しています。シェイクスピアの美しい台詞に自分で気持ちよくなれないように気をつけつつ、前の自分に勝つために、毎日を全力で駆け抜けるつもりです。

## 内田 滋

[カサンドラ]

うちだ・しげ 1998年舞台『毛皮のマリー』でデビュー。気鋭の演出家、劇団の舞台に多数出演。ドラマ『カーネーション』、舞台『真夜中のパーティー』『燕のいる駅』など。蛭川幸雄作品には『間違いの喜劇』『恋の骨折り損』以来の出演。



# Troilus & Cressida

公演概要

彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾  
『トロイラスとクレシダ』

日時：8月17日(金)～9月2日(日)

2012	8/17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	9/1	2
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00		★	★	休	★	★	★		★	★	休	★	★	○		★	★
18:30	★			休				★	★		休			○	★	★	

◎：映像収録のため場内にカメラを設置いたします。

【さいたまアーツ・シアターライブ!!】

全公演、開場30分前から劇場内情報プラザ等に多彩なメンバーによるライブ演奏をおこないます。

## STORY

トロイ戦争のさなか、神官の娘クレシダ(月川悠貴)に狂おしいほど思いを寄せるトロイの王子トロイラス(山本裕典)は、彼女の叔父パンダロス(小野武彦)を通して求愛する。めでたく2人は結ばれ、永遠の愛を誓い合う。ところが、捕虜交換により、クレシダは敵国ギリシャへ送られることになった。到着するやいなや、ギリシャの武将たちの気をそそるクレシダ。時が経ち、軍使としてギリシャ陣営を訪れたトロイラスが見たものは、新たな恋人と抱き合っているクレシダの姿だった――。

会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
演出：蛭川幸雄  
制作：W.シェイクスピア  
翻訳：松岡和子  
出演：山本裕典、月川悠貴、細貝圭、長田成哉、佐藤祐基、塩谷瞬、内田滋、廣田高志、横田栄司、塾 一久、間宮啓行、鈴木 豊、妹尾正文、岡田正福、福田 潔、山下禎啓、井面猛志、星 智也、谷中栄介、鈴木彰紀\*、尾関 隆、小野武彦、原 康義、たかお鷹 \*さいたまナクスト・シアター

チケット(税込) 好評発売中  
一般：S席 8,000円 / A席 6,000円 / B席 4,000円 / 学生B席 2,000円  
メンバーズ：S席 7,200円 / A席 5,400円 / B席 3,600円

## アーティストの原点

vol. 06

Kyotaro Yanagiya

## 落語家 柳家喬太郎

じっくり聴かせる古典から、独自の喬太郎ワールドに連れ去られる新作まで、八面六臂の活躍を続ける柳家喬太郎。多少の回り道はあれど、やはり選んだのは好きで好きでたまらない落語の一本道だった。以来20余年。多忙を極める人気者ゆえの悩みも抱えつつ、常に変わらないのは落語に対する真摯な情熱だ。

取材・文◎市川安紀



## 「二ツ目のがむしゃらさを持ち続けたい」

### マイナスからの出発

僕らが子どもの頃はテレビの寄席番組も今よりは多くて、落語がもう少し身近にありました。落語好きの友人の影響で、興味を持ち出したのが中学3年のころ。高校ですっかりのめり込み、大学は落語研究会で落語まみれの日々です。バイト先は落語会も開くような飲み屋。テレビ、ラジオの学生落語の大会では、新作落語で大賞をいただきました。でも、噺家になる気はさらさらなかった。落語が好きすぎて、畏れ多かったですよね。落語でメシを食っていく自信はとてもないし、大学卒業後はいわゆる普通の人生を歩むつもりでいましたから。

それで書店に就職しました。誤解されると困りますが、もともと本が好きで、「なりたくて」書店員になったんです。たまに「会社勤めなんてえのはヤダねエ。ヨシッ、噺家になっちゃおう！」ってことでしょ?」なんて聞かれますが、全然違います(笑)。勤めたのはたった1年半だったけれど、書店員という仕事には誇りを持っていました。でも働くうちに、落語への想いが勝ってしまったんです。



二ツ目時代(1998年)／彩の国さいたま芸術劇場 拾年百日亭)  
Photo◎栗原義幸

### 一心に夢を追う日々

師匠にとっても僕は初めての弟子でした。1つの話をじっくり覚えるほうがいいという師匠でしたから、入門3年半後に前座から二ツ目になった時、自分のネタは9席しか持ってなかったんです。でも、他の師匠のところにも稽古に行きましたし、前座勉強会では新作をやってもいいと言ってくれて。わりと自由にさせてもらいましたね。

二ツ目時代は、とにかくがむしゃらでした。もう、噺家生活が楽しくてしょうがない。二ツ目になって所帯を持ったんですが、ギリギリ食ってはいけなし、それでいて時間に余裕があるから、やりたいことを自由にできる。いつかこんな噺をやってみたい、こんな噺家になりたい……。青くさく言えば、夢に向かってがむしゃらに突き進む楽しさが、何よりも勝っていました。

入門10年半で真打ちになったんですが、発表が昇進の2年前。注目されて非常にプレッシャーを感じましたね。ご鼻頂いただくことが増えるにつれ、ハードルが上がるのは当然ですけど。昔も今も、目指すところは古典と新作の両立です。古典落語を奇をてらわずにやれる噺家になりたいのと同時に、新作もどんどん作っていきたく。

と言いつつ、目下の悩みは忙しすぎてまったく時間がないこと。自発的に、かつ自由に楽しく新作を作る時間、稽古する時間、古典の掘り起こしのために本を読む時間もほしい。芸歴50年を超す師匠がゾロゾロいるこの世界で、僕はまだ芸歴23年弱。未来はたっぷりあるわけですから、なんとか時間を捻出して、これからもガンガン前向きにいきたく。いい意味で、二ツ目の気持ちを持ってほしいですね。

やなぎや・きょうたろう 1963年東京都生まれ。日本大学卒業後、書店勤務を経て、89年柳家さん喬に入門。前座名は「さん坊」。93年、二ツ目に昇進し「喬太郎」に。2000年、12人抜きで真打ちに昇進。落語会に寄席の定席にと活躍を続ける。01年彩の国落語大賞受賞のほか、国立演芸場花形演芸会大賞(3年連続)、芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。



# 珠玉のダンスを映画で楽しむ dance on screen 2012



マーサ・グラハム [Lamentation] (初演:1930年)

舞台上で踊るダンサーの表情が間近に見える。振付家の生の声も聞ける。ライブの舞台を見るのとはひと味違うダンスの面白さに出会えるのが映画ならではの魅力だ。

Photo © La Cinémathèque de la Danse



フィリップ・ドゥクフレ [Abracatabra] より [Shazam!] (フィルム製作:1998年)



マギー・マラン [May B] (初演:1981年)



ルドルフ・ヌレエフ [ニジンスキーへのオマージュ] (フィルム製作:1980年)

彩の国さいたま芸術劇場では2006年より「videodance」と銘打ち、ダンスの映像作品を紹介してきた。このプログラムを立案し、映像ならではのダンス体験を提案してきた舞踊部門の佐藤まいみプロデューサーと、その魅力について探してみたい。

## ダンス体験の新ジャンル

当劇場の「videodance」プログラムの一端を担ってきたのが、フランスのポンピドゥー・センターのvideodance部門。ポンピドゥー・センターは国立の総合文化

施設で、同時代の芸術情報発信基地として知られ、そのvideodance部門はダンス関連の映像の上映会を、1982年からほぼ毎年継続してきた。

「videoというメディアが急速に一般家庭にも浸透してき始めた1980年代、それまで見たこともなかった珍しいダンス映像の連続上映イベントに出くわしました。それが現在も続くポンピドゥー・センター「videodance」の記念すべき第1回目だったのです。当時日本ではマリー・ヴィグマンなんて写真でしか見たことがなかったので、その写真が動き出すのを見ることができた時は感無量でした」と、その出会

いを語る佐藤プロデューサー。

ダンスが一般的なレベルでビデオと関わりだすのは1980年代に入ってからのこと。本来残るものではないダンスが記録されるようになり、その数は膨大になっている。けれども一般の人がその映像を目にする機会は、とても限られている。そのなかでポンピドゥー・センターは、多くの人々がダンスに触れられる開かれた場を提供してきた。

## 彩の国さいたま芸術劇場 「videodance」シリーズ

彩の国さいたま芸術劇場は開館以来、高感度なコンテンポラリー・ダンスを紹介する劇場として認知されてきた。ダンスの映像作品を上映する「videodance」シリーズも人気で、2006年の初回から、2008年、2009年と回を重ね、ライブの舞台とはひと味違った視点からダンスに触れられるよい機会となっていた。ポンピドゥー・センターの協力を得て埼玉ならではのオリジナル・セレクトを中心としたラインナップが実現し、歴史的価値のある映像とならび、ピナ・バウシュ、ヤン・ファールブル、サシャ・ヴァルツ、ジェローム・ベルといった同時代のアーティストによる映像作品が集中的に上映された。

## 「dance on screen 2012」とは

11月に開催されるダンス映画上映会は、「dance on screen」と名称を一新、フランスのラ・シネマテック・ドゥ・ラ・ダンスが所蔵する珠玉のダンス映画を中心にお届けする。

ラ・シネマテック・ドゥ・ラ・ダンスはフランス文化省によって1982年に創設。ディレクターのパトリック・ベンサール氏がフランス内外のダンスに関わる映画、ドキュメンタリーなどを集め、映画500本以上、ビデオ・DVDは5500本以上を所蔵、アーカイブ保存している。膨大な所蔵作品を紹介、普及することにも精力的だ。映像作家でもあるベンサール氏とともにセレクトした今回の「dance on screen 2012」はこれまでのラインナップとは趣が異なっている。

ラインナップには、ダンスの源流を知り、歴史を追う、というコンセプトが感じられる。佐藤プロデューサーは「ダンスの歴史を辿るといって専門家向きのようには思われるかもしれませんが、それぞれがとても興味深く、楽しんでいただける内容になっています」と語る。マリー・ヴィグマン、ハラルド・クロイツベルクらが登場するドイツ表現主義の作品集、アメリカのモダン、ポストモダンの流れを知ることでできる作品（マーサ・グラハムやルシнда・チャイルズ等）、ほかに民族のアイデンティティに戻ってダンスを考える潮流を反映したフラメンコ作品集、ヌーヴェル・ダンスの源流を感じ取ることのできる作品等、多彩でレアな映像が揃った。「1930年頃にドイツで撮られた《タンホイザー》のバックスの饗宴の場面など、無声なのですが、当時の舞踊の息吹が生き生きと蘇るようです。60年代、亡命直後のヌレエフが『ライモンダ』を初めて西側に紹介した瞬間をとらえたドキュメンタリー映画は色々な意味で興味深く魅力的」と佐藤プロデューサー。歴史の奔流の先に生まれた私たちの時代のダンスの中からは、ピナ・バウシュの舞台について綴った貴重なフィルムも紹介する。ほかにもヌレエフによるニジンスキーへのオマージュ、ジョセフィン・ベーカー、ドリス・ハンフリー、ホセ・リモン、マース・カニングガム、アルヴィン・ニコライ、マギー・マラン、フィリップ・ドゥクフレらの作品を見ることができる。

映像ならではの新たな発見、感動がありそうだ。日本初上映の作品もあるのでラインナップをしっかりとチェックしたい。

## 公演概要

## dance on screen 2012

日 時:11月2日(金)~4日(日)  
会 場:彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
発 売 日:9月下旬(予定)

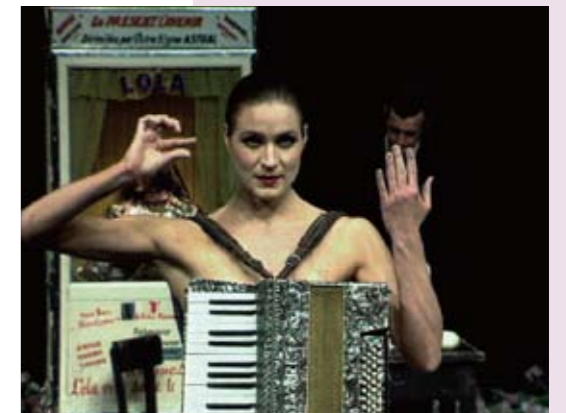
プログラム、上映時間等の詳細は次号発表!



ルシнда・チャイルズ [Katema] (初演:1978年)



アルヴィン・ニコライ [Chrysalis] (初演:1973年)



ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団 [Bilder] (フィルム製作:1990年)



ジャン・バビレ [Poignard] (フィルム製作:1952年)



カルメン・アマヤ [モンタージュ フラメンコ] より

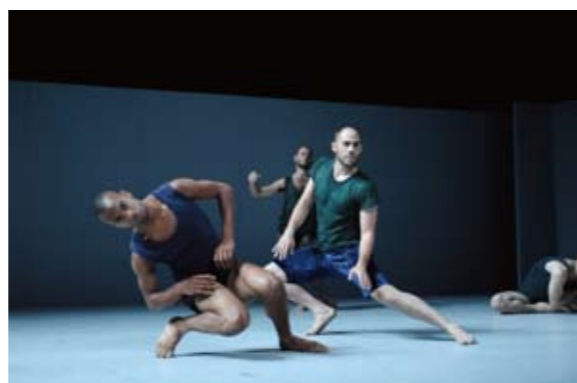




© Nero

### オハッド・ナハリン Ohad Naharin

1952年イスラエル生まれ。20代から舞踊を始め、ダンサーとしてバットシェバ舞踊団で活躍の後、ジュリアード音楽院で学ぶ。80年に振付家としてデビュー。90年バットシェバ舞踊団の芸術監督に就任し、『キール』(90年)、『マプール(洪水)』の成功により評価を高める。彼の作品はネザールランド・ダンス・シアター、リヨン・オペラ・バレエ団など世界中の著名なバレエ団で踊られており、現在世界で最も注目される振付家の一人である。



## バットシェバ舞踊団

Photo © Gadi Dagon

## 『Sadeh21』

イスラエルに拠点を置くバットシェバ舞踊団が2010年に続いて来日公演を行う。上演する最新作『Sadeh21ーサデ21』は日本初演。進化し続けるバットシェバ舞踊団、芸術監督・振付家のオハッド・ナハリン、そして作品の見どころについてご紹介する。

いと深めているのである。

初来日以降、切望されながらもカンパニー本体による来日公演はしばらくなかった。しかし2008年の『テロファーズ』を皮切りに、コンスタントに来日しているのはうれしい限りだ。2010年来日した『MAX』(彩の国さいたま芸術劇場)では、ダンサー達が何の合図もなくフッとユニゾンで動き、舞台上の空気全体をも踊らせてみせた。

そして今回の『Sadeh21ーサデ21』である。筆者は本作を昨年テルアビブのフェスティバルで見たが、本当に胸が震えた。好調な近年のナハリン作品の中でも、さらに精華と言っている作品である。

### 世界の悲劇に埋もれぬように

舞台は2メートルほどの壁があるだけのシンプルなものだ。冒頭はダンサーが入れ替わり現れてソロを踊っては去って

いく。これら鍛えられたバットシェバ・ダンサーの動きを見るだけでも凡百のダンス公演をしのぐ興奮を味わえる。カンパニーは全体に若返っており、身長も身体つきもバラバラで、バリエーションに富んでいる。ナハリンが開発したダンスメソッド「GAGA(ガガ)」を叩き込まれ、他のカンパニーでは決してできない動きが次々に展開していく。彼らの斬新な動きの数々を見ていると、我々は自由に踊っているつもりでも、いつの間にか手慣れた枠の中に入ってしまったことを思い知らされる。日本のダンサー達は、できるだけ前の席で、じっくりと見てほしいものだ。

……という楽しい時間を過ごせるもの

の、ナハリンがそれだけで終わるわけがない。中盤のある演出から、全てが反転していくのである。

詳細は自分の目で確かめてほしいが、その演出以降、舞台は一変する。見た目はそのままに、質だけがガラリと様相を変えるのだ。そして「我々を取り巻く世界は、常に数えきれぬほどの悲劇に満ちている」という重い現実と直面せざるをえなくなる。もちろんダンスは続いていく。しかし悲劇の存在に気づいて以降、たった今まで楽しんでいたダンスを、もはや同じ視線では見ることができなくなっている自分に気づく。やがて「小さな幸福に温まる心」と、「世界の悲劇を認識している理性」が、混沌となって観客を襲うのである。そして「人生をかけて探らねばなら

ない何か」が、胸の深いところへドンと落ちていく。ナハリン作品は常に多層的な造りになっていて、直接的に描くことはないものの、「舞台奥と手前を分離するように設置された壁」も、様々な見方ができるかもしれない。

坦懐にただ楽しく見ることもできれば、重く受け止めることもできる。オハッドはこれまでも十分に天才だったが、年を経て、こんな領域に達するとは。巨大なアーティストの転換期的作品を、ぜひ目撃してほしい。

付記しておくが、ナハリンは、GAGA(ガガ)を一般の人向けに改良し、普及に努めている。東日本大震災の際には、イスラエルでナハリン自らが700人を集めたチャリティのワークショップ「GAGA FOR JAPAN」を行い、被災者のために義援金を送ってくれた。

震災以降の日本もまた、いくつもの悲劇のさなかにある。我々はギリギリの「日常」を生きていかなければならない。運命が重くのしかかる中でこそ踊るべきダンスがあるということを、ぜひとも見てほしいものだ。

文◎乗越たかお(作家・ヤサくれ舞踊評論家)

### ダンスの根源を見せつける

恐るべき可動域と、瞬間ごとの発想力に満ちた動きで観客の目を釘付けにするダンサー達。そして強固で豊かな作品世界……、オハッド・ナハリン率いるバットシェバ舞踊団を一度でも見た人は、二度と忘れることができなくなる。ダンスが激しく心を揺さぶり、魂の奥深くへ杭のように打ち込まれるからである。

初来日である97年の『アナフェイス』を含む3つのプログラム(うちひとつは彩の国さいたま芸術劇場で上演)は、日本のダンスファンを一気に魅了した。最も来日が待たれているカンパニーのひとつといっているだろう。

いまやコンテンポラリー・ダンスも成熟期を迎え、かつて草創期を支えたフラン

ス・ドイツ・ベルギーなどの中央ヨーロッパでは、ノンダンスやコンセプチュアルな作品が大勢を占めるようになった。舞台美術が重視され、身体性の薄い作品が量産されている。だがそんなものに飽き飽きしている人々も確実におり、「揺り戻し」のように身体性の強いダンスへの要望が高まっている。そこでムーブメントの衝撃をもって真正面から観客を魅了するナハリン作品は、ダンス本来の威力と魅力を実感させてくれるものとして、世界中で求められているのだ。

だがナハリンは公私ともに心労が重なり、2003年から2年間、芸術監督を退いていた。その間も振付は続けていたものの、その頃の作品は死を思わせる影が強く、閉塞感も漂っていた。しかしここ数年は完全に復活している。そして以前よりも迫力を増し、かつ作品世界をグイグ

### 公演概要

### バットシェバ舞踊団『Sadeh21ーサデ21』

日 時: 11月23日(金・祝) 開演15:00、24日(土) 開演15:00  
 会 場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
 振 付: オハッド・ナハリン  
 出 演: バットシェバ舞踊団  
 チケット(税込)  
 一 般: S席6,000円/A席4,500円/学生A席3,000円  
 メンバーズ: S席5,400円/A席4,000円  
 発 売 日: 一般9月1日(土) メンバーズ8月25日(土)



ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.19

# ヤン・リシエツキ

## ピアノ・リサイタル

### 10代のプリンス、待望の登場

文◎原 明美

#### 衝撃だった 2011年の来日公演

ヴェテランから若手まで、内外の実に数多くのピアニストたちが、毎日のようにどこかのコンサート会場でリサイタルを開いているなか、私が2011年に最も注目したのは、ヤン・リシエツキのリサイタルだった。笑顔が魅力的な、爽やかな好青年の登場に目をみはったが、その充実した演奏内容には、さらに驚かされた。

ポーランド出身の両親のもと、1995年に生まれたヤン・リシエツキは、9歳でオーケストラと共演して以来、世界各地の音楽祭に招かれるなど、10代の若さながら国際舞台で活躍しているカナダのピアニスト。2010年にリリースしたデビューCDはディアバゾン・ドール賞を受賞し、2011年2月にはドイツ・グラモフォンと録音の専属契約を結んだという、期待の若手である。なお、2008年にユニセフのカナダ国内委員会大使（青年代表）に任命された彼は、昨年日本でのリサイタルの

出演料を、東日本大震災被災者への支援活動のためにと、日本ユニセフ協会に寄付したという。

筆者が2011年10月に聴いた東京公演では、この若者の豊かな才能が、きらきらと輝いているのが感じられた。

リサイタルの前半、まず、バッハの《平均律クラヴィーア曲集》第2巻第14番も、ベートーヴェンの《ピアノ・ソナタ第24番「テレゼ」》も、みずみずしい美しさを湛えていた。リストの《3つの演奏会用練習曲》では、リスト独特の毒気は取り払われ、リシエツキの素直でピュアな音楽性が魅力を放ち、特に第3曲《ため息》での、うっとりするような美しい流れは印象深い。一方、メンデルスゾーンの《厳格な変奏曲》には、ドラマティックな演奏効果が盛られていた。

そして、プログラムの後半は、バッハの《平均律クラヴィーア曲集》第1巻第12番に続いて、ショパンの難曲＝《12の練習曲》作品25だった。指先のコントロールが

弱冠 17 歳ながら順調にキャリアを積み、すでにノーブルな風格もたてる若きプリンス、リシエツキ。底知れぬ才能を秘めながらも奇をてらうことなく、みずみずしくしなやかな演奏を聴かせる。今回は日本では初お披露目となる現代作曲家、メシアンの《前奏曲集》で始まる充実のプログラムを用意。今だからこそ聴ける天賦の才に溢れた彼の演奏に期待が高まる。

# Jan Lisiecki

#### ヤン・リシエツキ Jan Lisiecki

1995年カナダ生まれ。その詩的で円熟した演奏は世界から賞賛を集め、各国でオーケストラとの共演を重ねる傍ら、多くの国際音楽祭にも招聘されている。2010年のカナダ建国記念日にはイギリス女王に捧げた演奏会を10万人の聴衆を前に、11年にはバリ管弦楽団のシーズン開幕公演でバーヴォ・ヤルヴィと共演、12年12月にはダニエル・ハーディング指揮 ニューヨーク・フィルと初共演予定。また、08年・09年の「ショパンとそのヨーロッパ」国際音楽祭（ワルシャワ）でのショパンの協奏曲2曲は、ポーランド国立ショパン協会から10年初頭にCDで発売され、ディアバゾン・ドール賞を受賞。11年ドイツ・グラモフォンと専属契約を結び、12年4月「モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番&第21番」をリリース。



© Mathias Bothor / DG

絶妙で、多彩なタッチを繰り出しながら、リシエツキは、連続する難曲を鮮やかなテクニックで弾き進めてゆく。そのうえで、12曲のそれぞれの聴かせどころを着実に、かつ美しく表現していたが、なかでも、最後の2曲～第11曲「木枯らし」と第12曲「大洋」～のスピーディーな展開は、強く印象に残る。

#### 今回のプログラム

今回、彩の国さいたま芸術劇場の「ピアノ・エトワール・シリーズ」で、ヤン・リシエツキが披露するプログラムは、20世紀の大作曲家オリヴィエ・メシアン《前奏曲集》からの4曲に始まる。前回のリサイタルでは近代・現代の作品は含まれていなかっただけに、興味を誘う曲目だ。メシアン独特の音楽語法から編み出される、色彩感にあふれた響き、そして、各曲に付けられた詩的なタイトルを、感受性豊かなリシエツキがいかに表現するか、注目したい。

続いて、バッハの《パルティータ第1番》。リシエツキはバッハの作品を、とりわけ重要なレパートリーとして位置づけているようで、彼自身、前回の来日に寄せたインタビューで、バッハは「クラシック音楽の基礎・原点とも言え、その作品にいつも魅了される大好きな作曲家」であり、「ですから、バッハを軸に他の作曲家へと広げていきます」と語っている。前回のバッハでは、美音とみずみずしい流れが印象的だったが、今回はさらに長い組曲形式の作品が披露されるので、構築美

や、各舞曲の特色のとらえ方なども、聴きどころとなろう。

モーツァルトのポピュラーな名曲のひとつ、《ピアノ・ソナタ「トルコ行進曲付き」》では、変奏曲形式の第1楽章、メヌエットの第2楽章、単独でも有名なトルコ行進曲の第3楽章と、それぞれの特色の出し方に注目したい。そのうえで、リシエツキの指先が奏でる絶妙なタッチと、彼のピュアな音楽性が、モーツァルトらしい典雅な音色と流麗な味わいを作り出すことだろう。

プログラムを締めくくるのは、昨年の東京公演と同様、ショパンの練習曲集《エチュード》作品25である（ちなみに今回、東京公演の方は作品10が予定されている）。ピアニスト泣かせの難曲が並ぶが、全12曲を通して、リシエツキの圧倒的なテクニックが、やはり注目されよう。そして、10代なかばの若さにして、ステージ経験の豊富な彼は、今回も各曲の特色を巧みにあぶり出し、聴かせどころを盛り込んだ演奏で、私たちに魅了してくれるに違いない。

今年でまだ17歳。類い稀な才能に恵まれた、この魅力的なピアニストからは、今後も目が離せない。

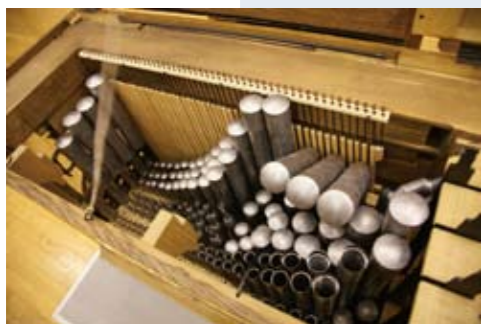
#### 公演概要

#### ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.19 ヤン・リシエツキ ピアノ・リサイタル

日 時：9月29日(土) 開演14:00  
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
曲 目：メシアン／《前奏曲集》より  
第1曲(鳩)、第2曲(悲しい風景の中の恍惚の歌)、  
第3曲(軽快な数)、第4曲(過ぎ去った時)  
J. S. バッハ／パルティータ第1番 変ロ長調 BWV 825  
モーツァルト／ピアノ・ソナタ第11番 イ長調 KV 331(300i)「トルコ行進曲付き」  
ショパン／12の練習曲 作品25

チケット(税込) 好評発売中  
一 般：正面席3,500円／バルコニー席2,500円(学生1,000円)  
メンバーズ：正面席3,200円





上蓋を上げて上からみたところ、パイプが見える



正面の覆いはずし中のパイプが良く見えるようにして、音の出る仕組みを説明



#### 大塚直哉

おおつか なおや  
東京藝術大学大学院チェンバロ専攻、阿姆斯特ダム音楽院チェンバロ科およびオルガン科修了。「アンサンブル・コレティエ」「バッハ・コレギウム・ジャパン」などのアンサンブルにおける通奏低音奏者として、またチェンバロ、オルガン、クラヴィコードのソリストとして活躍するほか、これらの楽器に初めて触れる人のためのワークショップを各地で行っている。現在、東京藝術大学准教授、国立音楽大学ほか講師、彩の国さいたま芸術劇場オルガン事業アドバイザー。2010年4月よりNHK-FM「古楽の楽しみ」の案内役として出演中。

## パイプオルガンをもっと身近に「みんなのオルガン講座」

彩の国さいたま芸術劇場には、移動可能な小型のパイプオルガンがある。「ポジティブ・オルガン」と呼ばれるこのオルガンを使った講座が、平成18年度より開催されている。



オルガンを囲み次々と質問が飛び出す

パイプオルガンを間近で見て、鍵盤に触れる、またオルガン音楽を紹介してくれる講座が開かれていることをご存知だろうか。ちょっと見ただけではパイプオルガンには見えないコンパクトなポジティブ・オルガンを用いて、そんな講座が開かれている。

講座には、レクチャーA「はじめて知るパイプオルガン」（小学生以上）とレクチャーB「パイプオルガンの旅」（高校生以上）、演奏を学ぶコース「基本コース（1年目／2年目）」がある。講師を務めるチェンバロ、パイプオルガン、クラヴィコード奏者の大塚直哉氏にお話をうかがった。

「オルガンは保守が難しい楽器です。公演時に弾くだけでなくもっと弾かないとよくないということで、市民に開放しオルガンに出会う機会になればと講座を開講しました。レクチャーAは、わかりやすくオルガンという楽器を知ってもらおうというものです。内部のパイプを見せ、楽器の構造を解説し、音の出る仕組みを紹介します。さまざまな質問、例えば重さや材質など、が出ますのでお教えします。家族でいらして、お父さ

んはメカニックなところ、お母さんは音色、お子さんは楽器を弾いてみたい、と興味を持つ部分が違って楽しんでいただけているようです。鍵盤に触って音を出せますし、楽譜を持ってきた人は曲を弾けます。

レクチャーBは、パイプオルガンの音楽を知るための講座です。オルガンを見て触って満足するだけでなく、もっと音楽に関心を持つ人を育てたいと思い開いています」

例えば、6月17日に開催されたレクチャーBのテーマは「16・17世紀スペイン編」。音楽の特徴をキーワードで説明したり、お勧めの作曲家の作品を譜例、映像、CDで紹介する他、「基本コース」の修了生がデモ演奏するなど多角的に解説されていた。

講座では、小型のポジティブ・オルガンが一番大きな音を出すとうどう響くか、調律、フランスやドイツのオルガンの違いなどなど、パイプオルガンにまつわるありとあらゆることを丁寧にわかりやすく説明してもらえらる。受講後には、パイプオルガンがかなり身近に感じられ、ますます興味をもつに違いない。



© Laurent Ziegler

## アクラム・カーン ロンドン・オリンピック開会式の 振付を手がける!

現在最も勢いがありワールドワイドに活躍を続ける振付家アクラム・カーンが、『トレインズポッティング』、『スラムドッグ\$ミリオネア』などで知られるイギリスの映画監督ダニー・ボイルが演出する、2012年ロンドン・オリンピックの開会式の振付を行うことが発表された。カーンはバングラデシュ系イギリス人、7歳よりインド古典舞踊カタックを学び、「コンテンポラリー・カタック」ともいえるオリジナルなダンスのクリエーションを行っている。『聖なる怪物たち』でシルヴィ・ギエムと、『In-1』でジュリエット・ピノシュと共演するなど話題作を次々と発表しており、彩の国さいたま芸術劇場には2007年にシティ・ラルビ・シェルカウイとともに『ゼロ度』で登場した。来春早々には昨年世界初演された注目の最新作『DESH』を引っさげ、再び彩の国さいたま芸術劇場の舞台に立つ。

オリンピックのセレモニーに登場したダンスの演出家と言えば、1992年アルベールビル冬季オリンピックの開会式・閉会式の

演出を担当した振付家フィリップ・ドゥクフレが有名。サーカスとダンスとを融合させた演出はもはや伝説となっている。1998年長野オリンピックの開会式では、セントルイス・バレエ団芸術監督の堀内元が演出を手がけた。

会場は数万人の観客で埋め尽くされ、さらに数億の人々が見つめるオリンピックの開会式。ボイルとのコラボレーションによってカーンのスタイルであるクロス・カルチャーなテイストがどのように現れるのか、カーンのソロ・ダンスも予定されており、特別なパフォーマンスが楽しみだ。

アクラム・カーンのソロ作品『DESH』。2013年1月に彩の国さいたま芸術劇場で上演決定!

© Richard Haughton



## お昼どきにクラシックで 憩いと安らぎのひとときを

### 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第19回 大島文子&直子 デュオ ～姉妹で紡ぐクラリネットとピアノの響き～

埼玉会館の大ホールにて、ランチタイムにコンサートが行われている。出演者のトークを聞きながら、心からリラックスしてクラシック音楽を楽しむ時間をすごせるなんてかなりの贅沢だ。料金はたったの1000円! このシリーズがユニークなのは、さまざまな楽器編成のアンサンブルを楽しめるところ。オーソドックスな弦楽四重奏、管楽器、ピアノデュオ、木琴とピアノ、バンドネオンとピアノ、などなど。取り上げる曲目も、その編成での普段のリサイタルや演奏会ではあ

まり演奏されない曲が含まれていたりして、思わぬ発見がある。

第19回には大島文子と直子の姉妹デュオが登場する。輝かしいキャリアをそれぞれ持ち、姉妹なので息もぴったり。そんな彼女たちが演奏するのはブーランクやドビュシーのクラリネットの名曲で、ほかに山田耕筰の歌曲も用意されている。《赤とんぼ》、《からたちの花》、《待ちぼうけ》といった美しい作品がクラリネットとピアノでどのように

演奏されるのか興味深い。

さらにうれしい特典が。公演当日、ランチタイム・コンサートのチケットが半券を提示すれば料金が割引になったりソフトドリンクが無料になったりときさまざまなサービスが受けられるレストランなどの協賛店が多数あるのだ。

友人と誘い合って行けば、演奏を聴いた後、お食事とおしゃべりを心ゆくまで楽しめる。「普通の日」が「特別な日」になる楽しいコンサートにぜひかけてみては。



© Kevin Hatt

#### 公演概要

日 時：8月28日(火) 開演12:10 (13:00終演予定)  
会 場：埼玉会館 大ホール  
出 演：大島文子(クラリネット)、大島直子(ピアノ)  
曲 目：ブーランク/クラリネット・ソナタ  
ドビュシー/クラリネットのための第1狂詩曲  
[日本の歌]  
山田耕筰/箱根八里は、赤とんぼ、かやの木山、待ちぼうけ、からたちの花  
バッハ/ヴェルディの歌劇『リゴレット』による幻想曲  
チケット(税込) 好評発売中 全席指定 1,000円



PICK UP  
PLAY

5月29日～6月2日

『シンベリン』ロンドン公演



Photo ©渡部孝弘

4月に上演され大きな反響を呼んだ『シンベリン』のロンドン公演が、「ワールド・シェイクスピア・フェスティバル」の一環として行われた(会場:バービカン・シアター)。初日から満員の観客によるスタンディング・オベーションを受け、新聞評も2紙で四ツ星の好評価。シェイクスピアのロマンス劇の中でも難物とされる作品だが、「西洋と東洋が見事に融合」した蜷川らしい舞台に称賛が送られた。震災を経た日本人の視点から、シェイクスピア戯曲での本来の設定を一カ所だけ変更し、震災復興のシンボルである「一本松」を舞台上に登場させたことに対する言及も見られた。



開場中の劇場内の様子(左) 地下鉄駅構内のポスター(右)



英国紙レビューより

★★★★「蜷川はシェイクスピア作品に敬意を払うと同時に独自の解釈も加え、そのやり方は爽快である。(略)セット、衣裳、特殊効果が素晴らしい、主役陣はパワフル」——ザ・テレグラフ

★★★★「蜷川幸雄が演出したシェイクスピア後期ロマンス劇では西洋と東洋が見事に融合している。(略)2つの国が優美にスローモーションでぶつかり合った時、忘れ難いほどの感動を生み出す」——タイムズ

★★★「『夢幻的なうつろいと物語の明快さを兼ね合わせて展開する』——フィナンシャル・タイムズ

MUSIC 6月24日

NHK 交響楽団 井上道義(指揮)  
オリヴィエ・シャルリエ(ヴァイオリン)



オール・ベートーヴェン・プログラム、前半は『ヴァイオリン協奏曲』。ソリストのシャルリエはN響との相性もよく、艶やかでのびのある音色と、誠実で生き生きとした演奏は聴衆の心をつかみ、演奏後の拍手はしばらく鳴り止まないほど。後半の(交響曲第6番)は、井上道義のエネルギッシュな指揮で、N響ならではの濃密で引き締まった演奏を披露した。(会場:埼玉会館)

Photo ©横田敦史

MUSIC 5月8日

埼玉会館ランチタイム・コンサート  
第18回NHK交響楽団メンバーによるアンサンブル



NHK 交響楽団の精鋭によるハープ、フルート、弦楽器(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)のアンサンブル。出演者の軽妙なトークを交え、絶妙なやり取りを聴かせた五重奏のほか、イベール、サン＝サーンス、フォーレ、モンティから、ハープと各楽器によるデュオの名曲を集めたプログラムを披露。5つの楽器が紡ぎ出す優雅なメロディーとハーモニーを存分に楽しんだ50分間だった。

Photo ©加藤英弘

PLAY 5月3日～20日

『海辺のカフカ』

長大かつ深遠なる村上春樹の原作を、長年の村上作品の愛読者である蜷川幸雄が豊かに具現化。いくつものアクリルボックスが、時に図書館、書斎、森となって生き物のように動き回り、時空を超えた少年カフカの魂の旅路を見せていく。15歳の少年の迷いと葛藤を初舞台の柳楽優弥が好演。田中裕子をはじめ、謎を秘めた人物たちに扮した俳優陣も適確に村上ワールドを体現し、原作ファンも納得の舞台となった。

Photo ©渡部孝弘



MUSIC 6月9日

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.18  
エフゲニ・ボジャノフ ピアノ・リサイタル



待望のリサイタルにふさわしく、彼の魅力が堪能できるショパンのワルツ、マズルカ、リストの『巡礼の年』からの曲などでプログラムが組まれた。音の表情が実に豊かで、特にフォルテよりも多彩で存在感を放つピアノニッサムに耳を奪われた。自由奔放なようにて明確な演奏設計がなされ、コントロールの効いた演奏に好感が持てた。

Photo ©加藤英弘

DANCE 6月23日

システム カスタフィオール  
『スタンド・アローン・ゾーン』



舞台上の4人のパフォーマーが背景の緻密なCG映像、音楽と重なり合うと不思議な立体感が生まれ、時折3D映像を見ている気分になり舞台上でパフォーマンスが行われているのを忘れてしまいそうになった。他に類を見ないセンスの良いパフォーマンスで、静謐でファンタジックな舞台空間に引き込まれた。

Photo © Matron

★特に記載のないものは彩の国さいたま芸術劇場で開催。



PLAY	DANCE	MUSIC	CINEMA
<p><b>7 july</b></p> <p>15日 開演時間 13:30</p> <p>16日 月祝 13:30</p> <p>17日 火</p> <p>18日 水 井上ひさし生誕77</p> <p>19日 木 フェスティバル 2012</p> <p>20日 金 ごまつ座&amp;</p> <p>21日 土 ホリプロ公演</p> <p>22日 日 「しみじみ日本・</p> <p>23日 月 乃木大将」</p> <p>24日 火 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)</p> <p>25日 水 臨時休館日(埼玉会館)</p> <p>26日 木 詳細は ⇒ P.22</p> <p>27日 金</p> <p>28日 土</p> <p>29日 日</p> <p>30日 月</p> <p>31日 火</p>		<p><b>熊谷会館</b></p> <p>ファミリー・クラシック</p> <p>夏休みオーケストラ!</p> <p>29日 開演: 15:00</p> <p>会場: 熊谷会館</p>	<p><b>彩の国シネマスタジオ</b></p> <p>中国映画特集</p> <p>A.「海洋天堂」</p> <p>B.「孔子の教え」</p> <p>20日 13:00上映回終了後、「中国映画の全貌」主催者 鈴木一氏によるアフタートークがあります。</p>
<p><b>8 august</b></p> <p>1日 水</p> <p>2日 木</p> <p>3日 金</p> <p>4日 土</p> <p>5日 日</p> <p>6日 月 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)</p> <p>7日 火 臨時休館日(埼玉会館)</p> <p>8日 水</p> <p>9日 木</p> <p>10日 金</p> <p>11日 土</p> <p>12日 日</p> <p>13日 月</p> <p>14日 火 臨時休館日(熊谷会館)</p> <p>15日 水 臨時休館日(熊谷会館)</p> <p>16日 木</p> <p>17日 金 18:30</p> <p>18日 土 13:00</p> <p>19日 日 13:00</p> <p>20日 月</p> <p>21日 火 13:00</p> <p>22日 水 13:00</p> <p>23日 木 18:30</p> <p>24日 金 13:00/18:30</p> <p>25日 土 13:00</p> <p>26日 日</p> <p>27日 月</p> <p>28日 火 13:00</p> <p>29日 水 13:00/18:30</p> <p>30日 木 18:30</p> <p>31日 金</p>	<p><b>光の庭プロムナード・コンサート</b></p> <p>夏休みスペシャル!「るるる・られる」</p> <p>4日 開演: 14:00</p> <p>会場: 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ</p> <p>出演: 新井英夫(ダンス)、原田靖子(オルガン)、大鹿智子(こどぼ)、ドワイ(美術)</p>	<p><b>彩の国シネマスタジオ</b></p> <p>「しあわせのパン」</p> <p>10日 10:30/13:30/17:00</p> <p>11日 10:30/13:20/16:10/19:00</p> <p>12日 10:30/13:30/17:00</p>	<p><b>彩の国シネマスタジオ</b></p> <p>埼玉会館上映会</p> <p>20日 「黒い雨」上映会+</p> <p>アーサー・ピナード氏講演会</p> <p>会場: 埼玉会館 小ホール</p> <p>上映時間 10:30/16:00/19:00</p> <p>講演会 13:30~15:00</p>
<p><b>9 september</b></p> <p>1日 土 13:00/18:30</p> <p>2日 日 13:00</p> <p>3日 月</p> <p>4日 火</p> <p>5日 水</p> <p>6日 木</p> <p>7日 金</p> <p>8日 土</p> <p>9日 日</p> <p>10日 月 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)</p> <p>11日 火 臨時休館日(埼玉会館)</p> <p>12日 水 臨時休館日(熊谷会館)</p> <p>13日 木 臨時休館日(熊谷会館)</p> <p>14日 金</p> <p>15日 土</p> <p>16日 日</p> <p>17日 月祝</p> <p>18日 火 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)</p> <p>19日 水</p> <p>20日 木</p> <p>21日 金</p> <p>22日 土祝</p> <p>23日 日</p> <p>24日 月 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)</p> <p>25日 火</p> <p>26日 水</p> <p>27日 木</p> <p>28日 金</p> <p>29日 土</p> <p>30日 日</p>	<p><b>熊谷会館バレエ・セミナー</b></p> <p>(上級:酒井はなクラス)</p> <p>13:00~15:00</p> <p>22日 (上級:中村恵恵クラス)</p> <p>15:30~17:30</p> <p>会場: 熊谷会館 ホール舞台上</p> <p>※受講生募集は締め切りました</p>	<p><b>埼玉会館ランチタイム・コンサート</b></p> <p>第19回 大島文子&amp;直子デュオ</p> <p>~姉妹で紡ぐクラリネットとピアノの響き~</p> <p>開演: 12:10</p> <p>会場: 埼玉会館 大ホール</p>	<p><b>彩の国シネマスタジオ</b></p> <p>「アーティスト」</p> <p>21日 10:30/13:15/16:20/19:00</p> <p>22日 10:30/13:15/16:00/18:45</p> <p>23日 10:30/13:15/16:00/18:45</p>
<p>さいたまアーツ・シアター</p> <p>ライブ!!「トロイラスと</p> <p>クレシダ」の公演期間中、</p> <p>開場30分前から劇場内</p> <p>情報プラザ等にてライブ</p> <p>演奏を行います。</p>		<p><b>ピアノ・エトワール・</b></p> <p>シリーズ Vol.19</p> <p>ヤン・リシエツキ</p> <p>29日 開演: 14:00</p>	<p><b>「孔子の教え」</b></p> <p>©2009 DADI CENTURY(BEIJING)</p> <p>LIMITED ALL RIGHTS RESERVED</p>

MUSIC

埼玉会館ファミリー・コンサート パーカッション★パラダイス

家族みんなで楽しめるコンサート。躍動のリズムが溢れ、美しい響きに満ちた打楽器の楽園で音楽を体感!



チケット発売日 一般:7月28日(土) メンバース:7月21日(土)

日時: 11月10日(土) 開演14:00
会場: 埼玉会館 大ホール
出演: パーカッション・ミュージアム(打楽器)
曲目: ホルスト(菅原 淳 編曲)/ 組曲(惑星)より(木星) ほか
チケット(税込) 大人2,000円 子ども(3歳~中学生)1,000円
※3歳未満のお子様はご遠慮ください。
※同日、小・中学生を対象としたワークショップあり(事前申込制)

DANCE

バットシェバ舞踊団「Sadeh21」

チケット発売日 一般:9月1日(土) メンバース:8月25日(土)

MUSIC

埼玉会館ニューイヤー・コンサート2013 ウィーン・MARO・アンサンブル

恒例の埼玉会館ニューイヤー・コンサート。MARO率いるN響の精鋭メンバーによるアンサンブルで新年の聴き初めを。



チケット発売日 一般:7月28日(土) メンバース:7月21日(土)

日時: 2013年1月7日(月) 開演14:00
会場: 埼玉会館 大ホール
出演: 篠崎史紀(第1ヴァイオリン)、白井 篤(第2ヴァイオリン)、佐々木 亮(ヴィオラ)、木越 洋(チェロ)、西山真二(コントラバス)、神田寛明(フルート)、横川晴児・山根孝司(クラリネット)、日高 剛(ホルン)
曲目: J.シュトラウスII/ 酒・女・歌、美しき青きドナウ ほか
チケット(税込) 一般S席3,500円/A席2,500円(学生1,000円)
メンバースS席3,200円

3歳以上のお子さまから楽しんでいただける公演です。

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第20回 東混ソリストが贈る 日本の歌&クリスマス・キャロル

毎回好評のランチタイム。12月は日本を代表する合唱団、東京混声合唱団のメンバーによるア・カペラ・コーラスで。



チケット発売日 一般:8月26日(日) メンバース:8月25日(土)

日時: 12月21日(金) 開演12:10
会場: 埼玉会館 大ホール
出演: 東混ソリスト(東京混声合唱団メンバー) 和田友子・佐藤祐子(ソプラノ)、栗原苑子・小林祐美(アルト)、千葉弘樹・川出康平(テノール)、徳永祐一・佐々木武彦(バス) (予定)
曲目: 通りゃんせ、七つの子、もろびとこぞりて、あら野のはてに ほか
チケット(税込) 全席指定1,000円

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2012.7-9



「孔子の教え」©2009 DADI CENTURY(BEIJING) LIMITED ALL RIGHTS RESERVED

7月20日(金)~22日(日)

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

中国映画特集 A.「海洋天堂」 B.「孔子の教え」

20日(金) 10:30(A)/13:00(B)/16:20(A)/18:50(B)
21日(土) 10:00(B)/13:10(A)/15:40(B)/18:40(A)
22日(日) 10:00(A)/12:30(B)/15:20(A)/17:45(B)

※20日(金) 13:00上映回終了後、「中国映画の全貌」主催者 鈴木一氏によるアフタートークがあります。(当初予定しておりました映画評論家・石子 順氏から変更となりました)

「海洋天堂」(2010年/中国・香港/98分)
監督・脚本: シュエ・シャオルー 出演: ジェット・リー ほか
料金: 大人1,000円 小中高生800円(当日支払いのみ)

「孔子の教え」(2009年/中国/125分)
監督: フー・メイ 出演: チョウ・ユンファ、ジョウ・シュン、チェン・ジエンピン ほか
料金: 大人1,000円 小中高生800円(当日支払いのみ)



© 2011「しあわせのパン」製作委員会

8月10日(金)~12日(日)

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

「しあわせのパン」

10日(金) 10:30/13:30/17:00
11日(土) 10:30/13:20/16:10/19:00
12日(日) 10:30/13:30/17:00

監督・脚本: 三島有紀子
出演: 原田知世 大泉 洋 ほか (2011年/日本/114分)
料金: 大人1,000円/小中高生800円(当日支払いのみ)



© La Petite Reine・Studio 37・La Classe Americaine・JD Prod・France 3 Cinema・Jouror Productions・uFilm

9月21日(金)~23日(日)

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

「アーティスト」

21日(金) 10:30/13:15/16:20/19:00
22日(土祝) 10:30/13:15/16:00/18:45
23日(日) 10:30/13:15/16:00/18:45

※21日(金) 13:15上映回終了後、映画評論家・石子 順氏によるアフタートークがあります。

監督: ミシェル・アザナヴィシウス
出演: ジャン・デュジャルダン、ベレニス・ベジョ ほか (2011年/フランス/101分)
料金: 大人1,000円 小中高生800円(当日支払いのみ)



©Imamura Productions

8月20日(月)

会場: 埼玉会館 小ホール

「黒い雨」上映会 + アーサー・ピナード氏講演会

20日(月) 【上映】 10:30/16:00/19:00
【講演】 13:30~15:00

監督・脚本: 今村昌平
出演: 田中好子、北村和夫、市原悦子、三木のり平 ほか (1989年/日本/123分)
料金(映画・講演は別料金): 各大人1,000円 小中高生800円(当日支払いのみ)
※10:30上映回は音声ガイドがつきます。イヤホン付FMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。



PLAY

井上ひさし生誕 77 フェスティバル 2012  
こまつ座&ホリプロ公演  
『しみじみ日本・乃木大将』

日時：7月12日(木)～29日(日)  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
出演：井上ひさし  
演出：蛭川幸雄  
出演：風間杜夫、根岸季衣、六平直政、山崎 一、大石継太、大川ヒロキ、都築香弥子、岡部恭子、朝海ひかる、香寿たつき、吉田鋼太郎 ほか  
チケット(税込)  
一般：S席8,400円／A席6,300円／B席5,250円  
メンバーズ：S席7,850円／A席5,900円／B席5,000円  
※本公演は当日券のメンバーズ割引はございません。お支払いは現金のみとなります。予めご了承ください。

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾  
『トロイラスとクレシダ』

PLAY

オックスフォード大学演劇協会 (OUDS)  
『から騒ぎ』

日時：8月24日(金) 開演19:00  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
出演：OUDS劇団員  
チケット(整理番号付自由席・税込)  
一般2,500円 学生2,000円 高校生以下1,000円  
※英語上演／日本語字幕

PLAY

彩の国さいたま寄席  
四季彩亭 ～柳家喬太郎と  
おすすめ若手落語会

日時：10月13日(土) 開演15:00  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
出演：柳家喬太郎、柳亭左龍、柳家甚語楼、三遊亭天どん  
チケット(税込)  
一般3,000円 メンバーズ2,700円  
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

MUSIC

熊谷会館ファミリー・クラシック  
夏休みオーケストラ!

日時：7月29日(日) 開演15:00  
会場：熊谷会館  
出演：飯森範親(指揮)、朝岡 聡(ナビゲーター)、服部百音(ヴァイオリン/中学1年生)、東京交響楽団(管弦楽)  
曲目：バーンスタイン/《キャンディード》序曲  
小室昌広/ディズニーのメロディーによる管弦楽入門  
～みんなで歌おう&演奏しよう!～  
久石 譲/映画「となりのトトロ」より(さんぽ) ほか  
一般：大人 S席3,500円/A席3,000円  
子ども(3歳～中学生) S席1,500円/A席1,000円  
メンバーズ：大人 S席3,200円/A席2,700円  
※3歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場ファミリー・コンサート  
宮川彬良&アンサンブル・ベガ

①音楽を楽しく聴ける3歳以上のお子様とご家族のためのコンサート  
②たっぷり聴きたい方のためのコンサート(小学生以上対象)  
日時：8月11日(土)  
①開演11:30(休憩なし/12:40終演予定)  
②開演16:00(休憩あり/18:00終演予定)  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
曲目：①チャイコフスキー/四羽の白鳥の踊り  
チャーチル/『白雪姫』メドレー ほか  
②ドビュッシー/亜麻色の髪の乙女  
宮川彬良/バレエ音楽～ジャン・コクトー  
『墮天使の恋』より～ ほか  
チケット(税込)  
①一般：大人3,000円 子ども(3歳～中学生)1,500円  
メンバーズ：大人2,700円  
②一般：大人4,000円 子ども(小・中学生) 2,000円  
メンバーズ：大人3,600円  
※①②とも残席僅少  
※②へは未就学児の入場はご遠慮ください。

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第19回  
大島文子&直子デュオ  
～姉妹で紡ぐクラリネットとピアノの響き～

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.19  
ヤン・リシエツキ

MUSIC

庄司紗矢香&  
ジャンルカ・カシオーリ  
デュオ・リサイタル

日時：10月7日(日) 開演15:00  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
曲目：ベートーヴェン/ヴァイオリン・ソナタ第10番  
ト長調 作品96  
シューマン/ヴァイオリン・ソナタ第2番 二短調  
作品121 ほか  
チケット(税込)  
一般：正面席6,000円  
メンバーズ：正面席5,500円  
※当初発表しておりました曲目が変更となりました。詳細はP.23をご覧ください。  
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.20  
河村尚子

日時：11月25日(日) 開演14:00  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
曲目：スクリャービン/左手のための2つの小品  
ドビュッシー/ピアノのために ほか  
チケット(税込)  
一般：正面席3,500円  
メンバーズ：正面席3,200円  
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了

MUSIC

ダニエル・ハーディング(指揮)  
新日本フィルハーモニー交響楽団

日時：12月1日(土) 開演14:00  
会場：埼玉会館 大ホール  
曲目：チャイコフスキー/交響曲第4番  
ストラヴィンスキー/春の祭典  
チケット(税込)  
一般：S席6,500円/A席5,500円/B席4,500円(学生2,000円)  
メンバーズ：S席6,000円/A席5,000円/B席4,000円

# THEATER BRIDGE

INFORMATION

## 彩の国さいたま芸術劇場 シェイクスピア企画委員会を 開催しました

1998年の『ロミオとジュリエット』を皮切りに、シェイクスピア全戯曲37作品の完全上演を目指す「彩の国シェイクスピア・シリーズ」。彩の国さいたま芸術劇場芸術監督蛭川幸雄が演出・監修する本シリーズは、この春大盛況のうちに幕を閉じた「シンペリン」の上演をもって第25弾までを終えました。  
本シリーズの上演にあたっては、英文学者の河合祥一郎委員長を筆頭に、演出家、翻訳家、プロデューサーら専門分野の方による「彩の国さいたま芸術劇場シェイクスピア企画委員会」が組織され、それぞれの立場から今後のシリーズ展開や上演方法についての方針が検討されています。  
去る5月20日に開催された第23回目の委員会では、まず第23弾「じゃじゃ馬馴らし」、第24弾「アントニーとクレオパトラ」、第25弾「シンペリン」の実施結果の報告を、続いて8月に上演される第26弾「トロイラスとクレシダ」について、演出を手がける蛭川芸術監督から抱負が語られました。上演頻度の少ない本作をいかに魅力的な上演にできるか委員たちの意見交換にも熱が入りました。そして議題は来年度以降の上演作品選びへ。シリーズも残すところ12作品。意外なキャストिंगによる魅力的な企画がたくさん飛び出す充実した委員会となりました。  
ますます加速する彩の国シェイクスピア・シリーズにどうぞご期待ください!



■委員会メンバー  
委員長：河合祥一郎(英文学者)  
委員：蛭川幸雄(演出家・彩の国さいたま芸術劇場芸術監督)  
松岡和子(翻訳家・演劇評論家)  
高橋宣也(英文学者)  
セルマ・ホルト(プロデューサー)  
金森美彌子(プロデューサー)

INFORMATION

## 【謹告】「庄司紗矢香&ジャンルカ・カシオーリ デュオ・リサイタル」 曲目変更のお知らせ

10月7日(日)に彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホールにて開催する「庄司紗矢香&ジャンルカ・カシオーリ デュオ・リサイタル」につきまして、事情により、当初発表しておりました演奏曲目を変更させていただくことになりました。オール・ベートーヴェン・プログラムを楽しみにしていらしたお客様には申し訳ございませんが、新たな曲目でお楽しみいただけますと幸いです。  
なお、本来は曲目変更による払戻しはお受けしておりませんが、今回は非常に大きな変更のため、ご希望のお客様には特別に承ります。7月31日までに下記までお問い合わせ下さい。お客様には事情ご賢察の上、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。



Photo © Kishin Shinoyama

【変更後の曲目】  
ヤナーチェク：ヴァイオリン・ソナタ  
ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第10番 ト長調 作品96  
ドビュッシー：ヴァイオリン・ソナタ ト短調  
シューマン：ヴァイオリン・ソナタ第2番 二短調 作品121

彩の国さいたま芸術劇場チケットセンター TEL. 0570-064-939

INFORMATION

## 狭山茶のキャンペーンCMに 出演しました!

埼玉県では、7月31日まで、県産ブランド茶「狭山茶」のブランドアップキャンペーンを展開しています。この一環として制作されたCMに、埼玉県川口市出身の蛭川幸雄芸術監督と、さいたまゴールド・シアター、さいたまネクストシアターの団員が出演いたしました。CMでは、蛭川芸術監督が稽古場で団員たちに演技指導をする姿や、狭山茶を味わう様子が収められました(放映は6月末で終了)。CMの他、狭山茶のポスターが、県内茶販売店、西武鉄道主要駅、公共機関等で掲示されています。ぜひチェックしてみてください!



【チケットの購入方法について】

インターネット



「SAF オンラインチケット」で、発売初日 10:00 から公演前日 23:59 まで受付いたします。

トップページの「チケット購入」からお進みください。  
【PC・スマートフォン】 <http://www.saf.or.jp/>  
【携帯】 <http://www.saf.or.jp/mobile/>



電話予約

●チケットセンター  
**0570-064-939**

10:00～19:00(彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)  
※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

窓口販売

下記窓口で直接購入いただけます。  
電話予約したチケットの引取もできます。

- 彩の国さいたま芸術劇場 (10:00～19:00)
- 埼玉会館 (10:00～19:00) ※休館日をお確かめの上ご来場ください。
- 熊谷会館 (10:00～17:00)

【クレジットカード決済→コンビニ発券】  
※チケット代のほかに、【チケット1枚につき】システム利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】  
※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料 210 円(代金合計 3 万円以上は 410 円)、【チケット1枚につき】システム利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

【クレジットカード決済→宅配便で配送】  
※チケット代のほかに、【配送1件につき】送料 300 円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】  
※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料 210 円(代金合計 3 万円以上は 410 円)、【チケット1枚につき】システム利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

現金もしくはクレジットカード決済、  
その場でチケットをお渡します。  
※手数料はかかりません。

## ACCESS MAP アクセスマップ

【彩の国さいたま芸術劇場】



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1  
電話：048-858-5500(代) ファックス：048-858-5515  
●電車でのアクセス  
→ JR 埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分  
●バスでのアクセス  
→ JR 京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

【埼玉会館】



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4  
電話：048-829-2471(代) ファックス：048-829-2477  
●電車でのアクセス  
→ JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

【熊谷会館】



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広 3-9-2  
電話：048-523-2535(代) ファックス：048-523-2536  
●電車でのアクセス  
→ JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。



サポーター会員

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるように、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / (株) テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行 (株) パシフィックアートセンター / (株) アサヒコミュニケーションズ / FM NACK5 / 東京ガス(株) / カヤバシステム マシナリー (株) / (株) タムロン / (株) 十万石ふくさや 森平舞台機構 (株) / 東芝エルティエエンジニアリング (株) / 埼玉トヨタ自動車 (株) / (有) 齋賀設計工務 / ゲレッツ・ジャパン・スズゼン (株) / 武蔵野銀行 浦和ロイヤルバインズホテル / (株) アルピーノ / 国際照明 (株) / (株) サイサン 会長 川本宜彦 / 三国コカ・コーラボトリング (株) / 埼玉スバル自動車 (株) / 桶本興業 (株) (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 / (株) しまむら / (有) 六辻ゴルフセンター / 不動産 (株) / ビストロ やま / 埼玉信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ (有) プラネット / 関東自動車 (株) / (株) デサン / (株) 中島運輸 / セントラル自動車技研 (株) / 丸美屋食品工業 (株) / ポラスグループ / ひがし歯科 / 埼玉トヨペット (株) 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所 / (株) 埼玉交通 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット / サイデン化学 (株) / アイル・コーポレーション (株) 五光印刷 (株) / 旭ビル管理 (株) / ヤマハサウンドシステム (株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー / (株) サンワックス (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション / 広総業 (株) / (財) さいたま住宅検査センター / (株) コマーム / (株) 国大セミナー / (株) NEWS エンターテインメント (株) オーガス / イープラス / 六三四堂印刷 (株) / 医療法人 榎会 林整形外科 / 埼玉県整形外科医会 / 医療法人社団 山粋会 山崎整形外科

H24.6.15 現在 / 一部未掲載

【問合せ先】(公財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

2008

『から騒ぎ』

出演：小出恵介、高橋一生、長谷川博己、月川悠貴、吉田鋼太郎、蜷川哲朗 ほか



2010

『じゃじゃ馬馴らし』

出演：市川亀治郎、寛 利夫、山本裕典、月川悠貴 ほか



2007

『恋の骨折り損』

出演：北村一輝、姜 暢雄、窪塚俊介、高橋 洋、内田 滋、月川悠貴、中村友也、須賀貴匡 ほか



ALL MALE SERIES  
2004-2010

2006

『間違いの喜劇』

出演：小栗 旬、高橋 洋、内田 滋、月川悠貴、鶴見辰吾、吉田鋼太郎、蜷川哲朗 ほか



2004

『お気に召すまま』

出演：成宮寛貴、小栗 旬、菅野菜保之、高橋 洋、月川勇氣、大石継太、吉田鋼太郎 ほか



シェイクスピアの全戯曲 37 作品の完全上演を目指す「彩の国シェイクスピア・シリーズ」。1998 年の第1弾『ロミオとジュリエット』に始まり、今春の『シンペリン』で第 25 弾を数え、残すところ3分の1を切った。中でも、シェイクスピアの時代に準じた男性のみのキャストによる「オールメール・シリーズ」は、当劇場の名物企画。過去5回の公演は全て喜劇で、伸び盛りの若手俳優たちが華やかに舞台を彩ってきた。

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2012.7-8

平成 24 年 7 月 15 日発行 40号(隔月 15日発行) 第 40号 (7月-8月)  
発行人：竹内文則 発行：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団  
〒338-8506 さいたま市中央区上峰 3-15-1 TEL.048-858-5500